



学校だより



2021年9月1日
横浜市立港南台第一小学校

9月号

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp Tel 832-0210 Fax 832-7771

U R L <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/konandai/>

「心のソーシャルディスタンス」

校長 瀧田 健二

夏休み明け、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み中は緊急事態宣言下でもあり、新型コロナウイルス感染拡大の第5波の真っ只中となりました。第5波は今までの中で最大の波となりました。今まで経験したことのない夏休みであったと思います。このような事態になると、当たり前だと思っている『日常』が、とても尊いものだと気付かされます。学校生活を含む子どもたちの『日常』の中で、私たち大人が考えていかなければならないことは何か、改めて考えさせられ、身の引き締まる思いです。

コロナ禍の中で、「ソーシャルディスタンス」という言葉がよく使われます。人と人との（身体の）物理的距離のことです。人と人との距離は、身体の距離とともに、「心の距離」もあります。「心の距離」は「心のソーシャルディスタンス」と呼ぶことができます。遠いよりも近い方がよいソーシャルディスタンスです。私は「心のソーシャルディスタンス」が現代の社会を生き抜く上で、とても大切であると考えます。学校生活の中では、教師と子どもの関係、子ども同士の関係において、心と心のつながりや結びつきの強さがとても大切です。「心の距離」は子どもたちの学びの質をも左右し、子どもたちが生き生きと学ぶ環境づくりにおいて、大きな力を発揮します。

この「心の距離」が近い人を、子どもたちは好きな人ととらえます。自分にとって都合のいい人を好きな人ととらえているわけではありません。ずいぶん厳しいことを言われても好きな人もいれば、優しい言葉をかけてもらっているのに嫌いな人もいます。これは、子どもたちが直感的に、「この人は自分を大切にしてくれる人か」「自分の心の声を聴いてくれる人か」を判断しているからです。そして、子どもたちは嫌いな人との関係を無意識のうちに希薄なものにしようとし、言い返すと面倒くさいので、注意された時には、（納得していなくても）言うことを聞きます。指導に当たる側がこのような関係で満足しては、子どもたちの真の成長には結びつかないの言うまでもありません。

指導する大人は、子どもとの心の距離を近いものにし、子どもたちにとって好きな人と認識してもらうことが必要です。そのためには何を心掛ければよいのでしょうか。それは「子どもの声を聴く」「子どもに寄り添う」ことです。言葉では簡単に言うことができますが、これがなかなか難しいのです。言葉にならない声を拾い上げ、押し量り、包み込むようにして子どもと接していくことが求められます。そして子どもたちが、ふっと洩らした「本音」を拾い上げていくこと、受容していくことで信頼関係が築かれていくのです。私たち指導者は、常にこうありたいと思っています。

重要

コロナウイルス感染症予防について

< 必ず連絡が必要なもの >

- (1) 本人または家族がコロナウイルスと診断された場合
- (2) 本人が濃厚接触者と特定された場合
- (3) 本人または家族がPCR検査等の検査を受ける場合

汗や汚れたときに備えて、
ランドセルに
予備のマスクを
1～2枚準備してください。

< 健康観察について >

(1) 家庭での健康観察

- ① 毎朝、登校前に検温をしてください。
児童が自分で検温した後に、大人の方が体温の確認と発熱・咳などの症状がないか確認してください。
- ② 少しでも児童や同居の方に風邪症状が見られる場合には登校を控え、医療機関を受診するようお願いします。

(2) 学校での健康管理

- ① 家庭で登校前に検温をしていない場合、健康観察票を忘れた場合、体温の未記入の場合は、ご家庭に連絡し確認をとらせていただきます。
- ② 欠席、遅刻の場合は必ず朝の8時15分までに学校へご連絡ください。

< 欠席・出席停止の考え方 >

欠席基準：発熱や風邪症状など、少なからず新型コロナウイルス感染の可能性がある場合は登校を控え、医療機関への受診をお願いします。

- ① 発熱がある。
- ② 発熱がなくても明らかな風邪症状(咳・強いだるさ・息苦しさ等)がある。

登校基準：すべての症状が完全に消失した場合/医師より登校の許可が出た場合、登校可となります。

ほっとスペース～児童支援専任からのお知らせ

～ 遊びの中で、「自分を守る力」を高めよう ～

体や声を使った遊びは、自分を守る力を高めるトレーニングになります。

「よく見る」「よく聞く」「逃げる」「大きな声を出す」「伝える」・・・知らないうちに、こんな力がついています。

遊びの中で、周りを観察したり、後ろを気にしたり、相手や周りとの距離感をつかんだり、逃げたり、叫んだりすることが、子どもたちの安全に役立つ力を高めています。

また、「遊び」ではありませんが、安全への意識を高く保つ上で、学校で学んだ安全の標語など(例えば、「いかのおすし(いかないのらない・おおごえを出す・すぐにげる・しらせる)」)を、繰り返し確認することも意味があります。クイズなどにしてご家庭でも試してみたいかがでしょうか。

一中ブロック 横浜子ども会議

「だれにとっても 居心地のよい学校づくり」



<本校の取組>

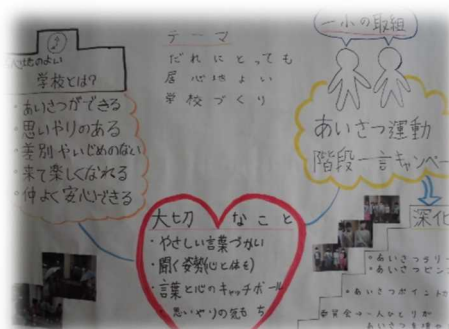
本校の委員会活動の中にある「にじのはし委員会」(人権委員会)では、だれにとっても居心地のよい学校にしていくために、「あいさつで、心と心をつなごう」「温かい心であいさつをしよう」と話し合い、毎朝緑門の前に立ち、あいさつ運動を実施しています。また、「思いやりの気持ちが大切」「みんなが明るく前向きな気持ちで学校生活を送れるようになる言葉かけを」と全校に提案し、階段一言キャンペーンを始めました。

これらの取組や話し合ってきたことを、港南台第一中学校ブロック(一中・一小・二小・三小)の代表者が集まる、「一中ブロック横浜子ども会議」で発表してきました。



<一中ブロック横浜子ども会議の様子>

小学校での取り組みを報告したり、ほかの学校の取り組みについて報告を聞いたりしました。各校の共通点から、「一人ひとりが認め合い気持ちのよい声かけをしよう」という一中ブロックのテーマが決まりました。



いろいろな学校の取組について話を聞くことができ、有意義な時間となりました。

子ども会議後、にじのはし委員会からは、「気持ちのよい声かけ」を全校で広めるために、「自分が考える気持ちのよい声かけをピンゴカードに書いて、声かけできたら○をしていく取組ができたらいいな。」と、早速意見が出ていました。